

学位論文の内容の要旨

専攻	分子情報制御医学	部門	分子神経機能学
学籍番号	13D751	氏名	横山勝教
論文題目	Effort-reward Imbalance and Low Back Pain among Eldercare Workers in Nursing Homes: A Cross-sectional Study in Kagawa Prefecture, Japan		
(論文要旨)			
<p>背景： 日本では多くの職種において労働災害の腰痛は減少しているにも関わらず、社会福祉施設で勤務する介護労働者の労働災害の腰痛は過去10年で2倍以上に増加している。他の多くの先進国と同様に急速な高齢化が起きている日本において、介護労働者の増加する腰痛問題の詳細かつ包括的な理解は重要である。これまでの報告から、医療機関で勤務する労働者の腰痛は患者の移乗を含む身体的な労働負荷だけでなく職業性ストレスが関連していることが分かっている。しかしながら、介護施設で勤務している介護労働者を対象とした、職業性ストレスと腰痛に関する研究はあまりない。</p> <p>目的： 介護施設で勤務している介護労働者の努力-報酬不均衡モデル職業性ストレス (ERI) を明らかにし、そのERIと腰痛の関連を調べる。</p> <p>方法： 2013年に、香川県にある79の介護老人福祉施設のうちランダムに選択した18 (23%) の施設に549部の質問紙を配布した。回答が得られた467名の適格者のうち、372名 (80%) が努力-報酬不均衡モデル職業性ストレス調査票の項目をすべて回答していた。その他の項目もすべて回答していたのは342名 (73%) だった。</p> <p>結果： 342名のうち、調査時に腰痛があると回答したのは215名 (63%) で、291名 (85%) は努力報酬得点比が1より高く、職業生活において費やす努力と、そこから得られるべき、もしくは得られることが期待される報酬が釣りあわない重大な「高努力/低報酬状態」であった。多変量ロジスティック回帰分析で年齢、性別、過去の腰痛歴、高リスクな仕事の頻度、心理的苦痛 (K6調査票) を調整すると、ERIが高い介護労働者は、ERIが低い労働者と比べて、腰痛のリスクが高かった (オッズ比1.96, 95% 信頼区間1.02-3.77)。</p>			

考察：

我々の知っている限りでは、この研究は介護施設で勤務している介護労働者のERIを明らかにした初めての研究である。今回調査した18の老人福祉施設の介護職員の平均の努力-報酬不均衡モデル職業性ストレスは1.38で、過去の病院職員（医師、看護師等）を対象にした研究で示された職業性ストレスが0.7-1.0と比べて、現在の介護職員の職業性ストレスは非常に高いことが分かった。また、63%と多数の回答者が調査時点で腰痛を持っていた。高いERIや心理的苦痛が独立してその腰痛に関連していることはこれまでの報告と一致した。

結論：多くの介護労働者が高いERIを有しており、その腰痛と関連がある。努力-報酬不均衡のバランスを改善することが介護施設で勤務する介護労働者の腰痛問題を改善する重要な因子であるかもしれない。

解析対象 (n = 342)	Odds ratio (95% CI)	P value *
年齢 (歳)		
< 30	1	
30 - 39	1.19 (0.64 - 2.23)	0.58
40 - 49	1.15 (0.58 - 2.29)	0.69
≥ 50	1.57 (0.76 - 3.29)	0.22
性別		
男性	1	
女性	1.26 (0.76 - 2.09)	0.35
介護職に就く前の腰痛の既往		
なし	1	
あり	2.12 (1.24 - 3.72)	0.006
腰痛のリスクがある労働		
高齢者の移乗, 回/日		
< 6	1	
6 - 19	1.61 (0.88 - 3.12)	0.16
≥ 20	2.15 (1.02 - 4.56)	0.04
おむつの交換, 回/日		
< 3	1	
3 - 11	1.44 (0.72 - 2.86)	0.30
≥ 12	1.24 (0.58 - 2.88)	0.62
入浴介助, 回/週		
< 2	1	
2 - 3	1.07 (0.37 - 3.02)	0.83
≥ 4	0.85 (0.41 - 1.73)	0.65
夜勤, 回/月		
< 3	1	
3 - 4	0.61 (0.29 - 1.24)	0.17
≥ 5	0.89 (0.44 - 1.78)	0.75
K6値 < 10	1	
K6値 ≥ 10	2.27 (1.40 - 3.75)	<0.001
努力報酬比 ≤ 1	1	
努力報酬比 > 1	1.96 (1.02 - 3.77)	0.04

掲載誌名	Journal of Occupational Health		
	第 56巻, 第 3号		
(公表予定) 掲載年月	2014年 5月	出版社(等)名	Japan Society for Occupational Health
Peer Review	(有) 無		

(備考) 論文要旨は、日本語で1, 500字以内にまとめてください。